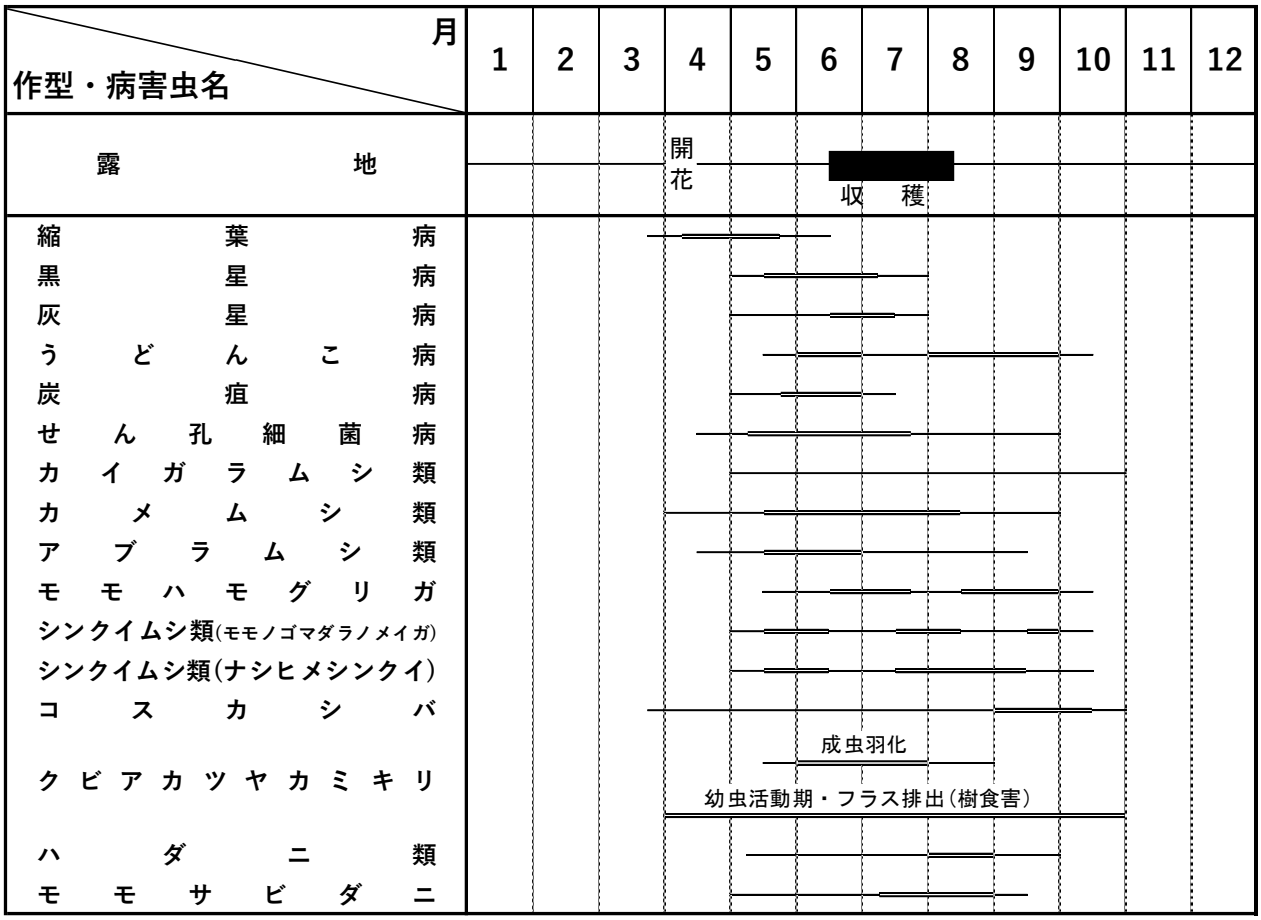
もも



縮葉病

留意事項

1 開花期頃、低温多雨のとき多発する。

2 チオノックフロアブルは、かぶれに注意する。

防除方法

1 発病葉は摘除し、ほ場外へ持ち出し処分する。

2 発芽前（3月上旬）に下記の薬剤を散布する。

・石灰硫黄合剤 ＜－＞【7倍　発芽前／－】

・チオノックフロアブル ＜Ｍ３＞【500倍　7日／5回】

黒星病

留意事項

1 前年度の発生状況を考え、予防散布に重点を置く。

2 QoI剤≪１１≫、SDHI剤≪７≫は耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

3 チオノックフロアブルは、かぶれに注意する。

防除方法

1 袋かけを行う。
2 被害枝は、ほ場外に持ち出し処分する。
3 発芽前に下記の薬剤を散布する。
・石灰硫黄合剤 ＜－＞【7倍　発芽前／－】
4 感染期（4月下旬～6月下旬）に下記の薬剤を散布する。
・ベルクート水和剤 ＜Ｍ７＞【2000倍　前日／3回】
・チオノックフロアブル ＜Ｍ３＞【500倍　7日／5回】
5 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
・ストロビードライフロアブル ≪１１≫【2000倍　前日／3回】
・スクレアフロアブル ≪１１≫【2000～3000倍　前日／3回】
・アンビルフロアブル ＜３＞【1000倍　前日／3回】
・トリフミン水和剤 ＜３＞【1000～1500倍　前日／3回】
・パレード15フロアブル ≪７≫【2000～3000倍　前日／2回】

灰星病

留意事項

1 品種によって発病に差があり砂子早生、ネクタリンでは発病が多い。
2 成熟前から収穫期に降雨が多いと多発する。
3 QoI剤≪１１≫、SDHI剤≪７≫は耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。

防除方法

1 被害果枝や枯枝、ミイラ果は、ほ場外に持ち出し処分する。
2 発生が見込まれる時期（開花前後及び収穫20～30日前から収穫期）に下記の薬剤を散布する。
・ベルクート水和剤 ＜Ｍ７＞【1000～2000倍　前日／3回】
・ダコニール1000 ＜Ｍ５＞【1000倍　前日／6回】
3 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
・トップジンM水和剤 ＜１＞【1000～1500倍　前日／6回】
・ストロビードライフロアブル ≪１１≫【2000倍　前日／3回】
・トリフミン水和剤 ＜３＞【1000～1500倍　前日／3回】
・ロブラール水和剤 ＜２＞【1000～1500倍　前日／3回】
・パレード15フロアブル ≪７≫【2000～3000倍　前日／2回】

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。
注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

うどんこ病

留意事項

1 果実では6月頃から発生する。
2 葉に白斑を生じる種と、果実を侵す種の2種類が知られている。
3 QoI剤≪１１≫は耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。

防除方法

1 チッソ過多を避ける。
2 発生が見込まれる時期に下記の薬剤を散布する。
・ベルクート水和剤 ＜Ｍ７＞【1000～2000倍　前日／3回】
3 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
・ストロビードライフロアブル ≪１１≫【2000倍　前日／3回】
・トリフミン水和剤 ＜３＞【1500～2000倍　前日／3回】
・オンリーワンフロアブル ＜３＞【2000倍　前日／3回】

炭疽病（たんそびょう）

留意事項

1 幼果期から発病し、4月～6月に降雨が続くと発病が多い。
2 発病した枝の葉は上に巻く。
3 QoI剤≪１１≫、SDHI剤≪７≫は耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。

防除方法

1 被害果や葉の巻いている枝は切り取る。
2 発病の多い園地では、袋かけを早めに行う。
3 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
・オンリーワンフロアブル ＜３＞【2000倍　前日／3回】
・ナリアWDG ≪７≫ ≪１１≫【2000倍　前日／2回】

せん孔細菌病

留意事項

1 強風、降雨により発生が助長される。
2 発芽前に使用した石灰硫黄合剤の散布後は、ボルドー液の散布まで2週間あける。
3 果実は幼果期から未熟果期に感染しやすい。
4 ICボルドー412は、薬害のおそれがあるため、開花後から8月下旬までは使用しない。
5 薬剤防除は発生してからでは効果が劣るため、早めの予防散布を心がける。
6 チオノックフロアブルは、かぶれに注意する。
7 秋季防除は9月上旬～10月上旬頃に登録薬剤を2週間間隔で計3回散布する。

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。
注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

防除方法

1 伝染源となる発病枝等は摘除し、ほ場外に持ち出し処分する。
2 風当たりの強い園地では、防風ネット等を設置する。
3 開花期直前に下記の薬剤を散布する。
・ムッシュボルドーDF ＜Ｍ１＞【500倍　開花前／－】
・ICボルドー412 ＜Ｍ１＞【30～50倍　－／－】
4 発生が見込まれる時期に下記の薬剤を散布する。
・チオノックフロアブル ＜Ｍ３＞【500倍　7日／5回】
・デランフロアブル ＜Ｍ９＞【600～1000倍　7日／4回】
5 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
・バリダシン液剤5 ＜Ｕ１８＞【500倍　7日／4回】
・スターナ水和剤 ＜３１＞【1000倍　7日／3回】
・アグリマイシン-100 ＜２５＞ ＜４１＞【1500倍　60日／2回】
・マイコシールド ＜４１＞【1500～3000倍　21日／5回】
6 収穫後もせん定等で発病部位を取り除くようにし、発生の多い園地では秋季（9月～10月）に下記の薬剤を必ず散布する。
・ICボルドー412 ＜Ｍ１＞【30～50倍　－／－】

カイガラムシ類

留意事項

1 マシン油乳剤を散布した後は、石灰硫黄合剤の付着が悪いので、少なくとも1ヶ月の間隔をおいて散布する。
2 アプロード水和剤は第1世代幼虫発生期（4月下旬～5月中旬）に散布する。
3 なるべく天敵への影響の少ない薬剤（アプロード水和剤）を散布する。

防除方法

1 越冬期（12月中～下旬）に、下記の薬剤を散布する。
【マシン油剤　成分95%】
・機械油乳剤95 ＜ＵＮＭ＞
【落葉果樹(なし、りんご、かき、もも)　カイガラムシ　16～24倍　－／－】
【マシン油剤　成分97%】
・ハーベストオイル ＜ＵＮＭ＞【25～50倍　発芽前／－】
2 3月（発芽前）に下記の薬剤を散布する。
・石灰硫黄合剤 ＜ＵＮ＞【落葉果樹　7～10倍　発芽前／－】
3 第1世代幼虫発生期（5月上～中旬）に下記の薬剤を散布する。
・モスピラン顆粒水溶剤 劇 ＜４Ａ＞【2000倍　前日／3回】
・コルト顆粒水和剤 ＜９Ｂ＞【2000～3000倍　前日／3回】

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。
注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

・モベントフロアブル ＜２３＞【2000倍　7日／3回】
・アプロード水和剤 ＜１６＞【カイガラムシ類幼虫　1000倍　14日／3回】

カメムシ類

留意事項

1 発生量や加害時期は年により変動するので、園内への飛来状況に応じて早めに防除する。
2 袋かけを行なっても発生量の多いときは、果実と袋の隙間がなくなる頃に袋の上からも加害されるので、再度薬剤散布を行う必要がある。
3 ピレスロイド剤＜３Ａ＞を連用すると、ハダニ類、カイガラムシ類等の密度が高くなるので注意する。

防除方法

1 袋かけを行う。
2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
・スタークル顆粒水溶剤、アルバリン顆粒水溶剤 ＜４Ａ＞【2000倍　前日／3回】
・モスピラン顆粒水溶剤 劇 ＜４Ａ＞【2000～4000倍　前日／3回】
・アディオン乳剤 ＜３Ａ＞【2000倍　7日／6回】
・テッパン液剤 ＜２８＞【2000倍　前日／2回】

アブラムシ類

留意事項

1 発芽展葉期の防除に重点を置く。
2 ピレスロイド剤＜３Ａ＞を連用すると、ハダニ類、カイガラムシ類等の密度が高くなるので注意する。

防除方法

1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
・スタークル顆粒水溶剤、アルバリン顆粒水溶剤 ＜４Ａ＞【2000倍　前日／3回】
・モスピラン顆粒水溶剤 劇 ＜４Ａ＞【2000～4000倍　前日／3回】
・アディオン乳剤 ＜３Ａ＞【2000～3000倍　7日／6回】
・ロディー乳剤 劇 ＜３Ａ＞【1000～2000倍　前日／5回】
・ハチハチフロアブル 劇 ＜２１Ａ＞【2000倍　前日／2回】

モモハモグリガ

留意事項

1 6月～8月に被害が多く、成虫で落葉の下などで越冬する。
2 ピレスロイド剤＜３Ａ＞を連用すると、ハダニ類、カイガラムシ類等の密度が高く

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。
注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

なるので注意する。

防除方法

1 落葉を集めて、ほ場外に持ち出し処分する。

2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

・モスピラン顆粒水溶剤 劇 ＜４Ａ＞【2000～4000倍　前日／3回】

・ダントツ水溶剤 ＜４Ａ＞【2000～4000倍　7日／3回】

・アディオン乳剤 ＜３Ａ＞【2000～4000倍　7日／6回】

・サムコルフロアブル10 ＜２８＞【5000倍　前日／2回】

・ディアナWDG ＜５＞【5000～10000倍　前日／2回】

・ハチハチフロアブル 劇 ＜２１Ａ＞【2000倍　前日／2回】

シンクイムシ類

留意事項

1 果実に食入するシンクイムシ類にはナシヒメシンクイ、モモシンクイガ、モモノゴマダラノメイガがある。

2 ピレスロイド剤＜３Ａ＞を連用すると、ハダニ類、カイガラムシ類等の密度が高くなるので注意する。

防除方法

1 被害果や被害枝は、ほ場外に持ち出し処分する。

2 産卵期から幼虫加害期（5月上旬～7月下旬）に下記の薬剤を散布する。

・モスピラン顆粒水溶剤 劇 ＜４Ａ＞【2000～4000倍　前日／3回】

・アディオン乳剤 ＜３Ａ＞【2000～3000倍　7日／6回】

・テッパン液剤 ＜２８＞【2000倍　前日／2回】

・スカウトフロアブル 劇 ＜３Ａ＞【2000～3000倍　前日／5回】

・ディアナWDG ＜５＞【5000～10000倍　前日／2回】

コスカシバ

留意事項

1 成虫は年1回5月～10月に発生し、幼虫で越冬する。

防除方法

1 春季に虫糞の出ているところを目標に削り、幼虫を捕殺する。

2 春季(開花前)もしくは秋季に下記の薬剤を樹幹部及び主枝に散布する。

・フェニックスフロアブル ＜２８＞【200～500倍　開花期まで／1回】

3 食入孔のフラスをかき出してから下記の薬剤を注入する。

・ロビンフッド、ベニカカミキリムシエアゾール ＜３Ａ＞
【スカシバ類　樹幹・樹枝の食入孔にノズルを差し込み噴射　前日／5回】

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

4 4月にフェロモンディスペンサーを設置する。

・スカシバコンＬ

【果樹類　40～100本／10a(8g／100本製剤)　ディスペンサーを対象作物の枝に巻き付け設置する　成虫発生初期～終期】

クビアカツヤカミキリ

留意事項

1 幼虫は樹木内部を食い荒らし、枯死させる。食害は5月～6月に最も盛んになる。

2 成虫は6月～8月頃に出現し、幹や樹皮の割れ目に産卵し、10日前後で卵が孵化する。

3 幼虫の食入した穴から出るフラス(かみ砕いた木くず・糞・樹液の混合物)は、うどん状でこのフラスがある穴には幼虫がいる可能性が高い。フラス排出部位は、地表に現れた太い根から2ｍまでが多いが、3ｍ以上の高い場所の場合もある。

4 キルパー40を使用するにあたっては、加害された伐倒木を集積したものまたは枯損木に、所定薬量を散布し、直ちにビニールシート等で密閉し、所定期間くん蒸する。

5 くん蒸処理にあたっては、ガス化効率を十分確保するため日光の当たるところを選ぶほか、被覆するビニールシート等が風によりめくれないようにシートの裾は十分土等でおさえる。また、地面に接した部位は効果が不十分となる場合があるので、集積する際は枕木を入れる。

防除方法

1 成虫は見つけ次第、捕殺する(6月～8月)。

2 株元から2m程度の高さまで4㎜目ネットを二重、もしくは0.4㎜目ネットを一重に巻き付け、羽化した成虫を閉じ込める。巻き付ける際は、上端、下端には隙間ができないように固定し、樹幹部はゆったり余裕をもたせる。成虫がネットをかみ切ったり隙間から脱出したりする場合があるので、ネット設置後も定期的に見回り、捕殺する。

3 うどん状フラスを見つけたら、フラスが出ている穴に千枚通しや針金等を入れ、フラスをかき出してから下記の薬剤を注入する。

・ロビンフッド、ベニカカミキリムシエアゾール　＜３Ａ＞

【カミキリムシ類　樹幹・樹枝の食入孔にノズルを差し込み噴射　前日／5回】

4 成虫発生期に下記の薬剤を散布する。

・モスピラン顆粒水溶剤 劇　＜４Ａ＞【2000倍　前日／3回】

・アクタラ顆粒水溶剤　＜４Ａ＞【2000倍　前日／3回】

・テッパン液剤　＜２８＞【2000倍　前日／2回】

5 被害の大きい樹や枝は、9月～翌年3月の間に伐採・伐根し、破砕、焼却もしくは下記薬剤でくん蒸処理することにより適切に処分する。

・キルパー40　＜８Ｆ＞

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

【もも(伐倒木、枯損木)　被覆内容積1㎥あたり原液750～1500ml　14日間以上くん蒸　成虫羽化脱出前／1回】

ハダニ類

留意事項

1 葉がかすり状になってからでは手遅れであるため、早期発見に努める。
2 マシン油乳剤を散布した後は、石灰硫黄合剤の付着が悪いので、少なくとも1ヶ月の間隔をおいて散布する。
3 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

防除方法

1 発芽前に下記の薬剤を散布する。
・石灰硫黄合剤 ＜ＵＮ＞【落葉果樹　7～40倍　発芽前／－】
2 発生の初期に下記の薬剤を散布する。
・スターマイトフロアブル ＜２５Ａ＞【2000倍　前日／1回】
・マイトコーネフロアブル ＜２０Ｄ＞【1000～1500倍　前日／1回】
・コロマイト乳剤 ＜６＞【1000倍　7日／1回】
・サンマイト水和剤 劇 ＜２１Ａ＞【1000～1500倍　3日／1回】

モモサビダニ

防除方法

1 せん定枝は4月までにほ場外に持ち出し処分する。
2 発生初期に下記の薬剤を散布する。
・コテツフロアブル 劇 ＜１３＞【2000倍　前日／2回】
・マイトコーネフロアブル ＜２０Ｄ＞【1000倍　前日／1回】
・コロマイト乳剤 ＜６＞【1000倍　7日／1回】

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。
注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。